

## 鳥獣被害対策政策提言検証委員会 先進事例調査（塩尻市）概要

- 1 実施日 平成30年9月7日（金）
- 2 場 所 塩尻市 保健福祉センター 2階会議室
- 3 調査者  
望月勝委員長・遠藤浩副委員長  
山田一功委員・杉山肇委員・乙黒泰樹委員  
望月利樹委員・清水喜美男委員・山田七穂委員
- 欠席者  
大柴邦彦委員・上田仁委員
- 4 対応者  
塩尻市 企画政策部 金子春雄参事  
(株)ラムズ 米窪利幸 （センサー機器製造業者）
- 5 調査事項 センサーネットワークによる情報化と鳥獣被害対策について

### 6 主な質疑応答

問) 人口減少のなか、ICTを使い、効果的な対策を行っているという印象。  
鳥獣被害のため、市全体でアドホックネットワークを整備しなければならないのか？

答) 塩尻市ではそのようなシステムが整備されていたが、対策地だけアドホックネットワークすれば足りる。

問) 北小野地区で実証したとのことだが、経費はどのくらいかかったのか？

答) ICT街づくり事業全体で総務省から2年間でいただいたのは約2億5千万円で、その中で鳥獣センサー開発費は数百万円。

問) 塩尻インキュベーションプラザの入居企業等がICT研究開発を行ったとのこと。学とのかかわりはどのようなことだったのか？

答) 協力機関として、信州大学と長野高専がある。学のもっているシーズ(種)を社会に少しでも貢献したいという要望があり、行政は鳥獣被害のような地域課題があり、インキュベーションプラザが接点となり、つながりができた。

以上